

2008年

11月4日（火曜日） - 森田治良兵衛翁をお偲びして -

本日は、丹後ちりめんの始祖・森田治良兵衛翁の祥月命日をお迎えして、地元の産業人の皆様が中心になって構成される森田翁顕彰会の御主催により、御墓地を守っていただいている峰山町の常立寺において、「丹後ちりめん始祖・森田治良兵衛翁 慰霊祭」が厳かに執り行われました。私たちの地域を永い歴史を通じて支えていただいている丹後ちりめんを織り開いていただいた森田翁の尊いご功績とご遺徳に心から深く感謝を捧げますとともに、慰霊の誠を捧げます。

丹後ちりめんを巡りましては、改めて申し上げるまでもなく、大変厳しい状況に長く直面しておりますが、この間の業界の皆様の手がたい身を切るようなご努力に心から敬意を申し上げますとともに、そんな中だからこそいっそう、これから将来にむかう上でも、改めて来し方をふり返り、森田翁はじめ先人先達の皆様が尽くしていただいた大変なご恩やご遺徳に深く想いをいたし、心から感謝を捧げていくことがまずもって大切ではないかと思えます。

今から約 290 年前の江戸・享保の昔、当時の丹後の織物や社会を巡る状況も大変厳しい状態が長く続いていたとお伺いしますが、そんな中であって、森田翁が艱難辛苦の中を献身、耕されて、290 年後の遠い今へも続くちりめんのシボの技法を織り出されました。艱難辛苦の中に努力を諦めなかったからこそ初めて画期的な局面の打開に届くことができたというのがその際の歴史的薫陶ではないかと受け止めるわけですが、翁がシボの技法を創められたことはもちろん、この歴史薫陶も大きなご遺徳の一つではないかと思えます。

そして今こそ、翁のご遺徳を温故知新とし、希望と展望を強くして引き続き産地をあげてちりめん再興への力を尽くすことが大切であり、努力の継続の中に、必ずや新しい丹後ちりめん発展の次なる局面に導いていただけると、私は自然、信じております。翁の尽きせぬご遺徳とご恩に改めて深く感謝を捧げながら、全力をあげて産地の回生発展に努め続けてまいります。